

伊那谷スケッチ

.....
～自然と文化を巡るふるさと再発見～ 第三十七回



前島久美

稲作2年目。今年は黒米と餅米とコシヒカリの3色田んぼになった。粃から発芽させ、苗作りから挑戦した稲は今のところ順調に成長を続けている。今年は雑草が多く、毎日最低1時間の田の草取りが日課となっている。ぷりっとした葉っぱが特徴のコナギ、すっとしたネギ状のイヌホタルイ、細かく稲株の周りを取り巻くタケトアゼナ。梅雨が明けると彼らは増々成長が著しく、びっくりすると同時にその成長度合いに興奮してしまう。除去は追いついていない。パートナーのMさんに田の草取りを日課にしておくれと提言したが、「ボクにはみえない」と言われた。現在私は彼には見えないものに興奮し、戯れている。

地元探訪 小河内沢支流布引沢に行く

「布引きの滝」は、大鹿村の夕立神パノラマ公園（標高約1500m）周辺から見る事ができる。

まさに布を割いたような白い筋が緑の谷の中

に確認することができる。望遠でみてもかなりのスケールが伝わってくるのでその直下への好奇心は絶えない。

数年前に布引き沢の上流を目指したことがあ

ったが、装備が甘く連続する小滝を上り詰めることはできなかった。今回は沢屋のNさんと梅雨の晴れ間に2泊3日で溯行を試みた。

Nさんは風邪気味だったので、御所平に10時待ち合わせでのんびりとスタート。私は今季登り初め。ついてけるか心配だったがけれど、とりあえず歩いてみなくては分からない。小河内沢の本流は毎シーズン何回も遊ばせてもらっているのでそれなりに歩きなれている。いくつかのおなじみの滝に取り着いたりしながら体を慣らししていく。まずまずのタイムで右俣との合流点へ。左のV字2筋を登る。

いよいよ布引き沢へ。ほどなく、Nさんがサンショウウオを見つけて手に持っていた。この沢筋にはいると聞いていたけれど、はじめて会うことができた。

アカイシサンショウウオかどうかは分からない。瞳がキラキラとしていて奇麗だった。体はねっとりとしているが臭いはない。

その後はいよいよロープも出していくつもの滝を登っていく。

ナメ滝6筋は左から右へ、3筋は石を伝う。Nさんのルート選定とロープさばきが迅速なので、体力消耗も少なく集中できる。有り難くもくもくと経験を積ませてもらった。しばらく日の光が限定的な狭い谷を行くが、出会う滝に夢中に取り付いては登っていくと、あるポイントで空の面積が広がる。

そこへ落差60筋ほどのジグザグの滝が姿を現す。直下に向かって歩みを進めているとNさんが慌てて「くまだ！」と行って走ってきた。

目と鼻の先で80キロくらいあると思われる成熊が慌てて尾根に駆け上がっていった。熊に出会う前から腐敗臭がするなど思っていたが

流れの上部には、鹿の死骸があった。それを食べていたようだ。

それにしても彼はすごいところを駆け上がっていった。とても人間には登れないところを走っていったのだ。自然のエネルギーにはいつも圧倒される。

「くまちゃんルート」はちょっと難しいということになり、それより下部の傾斜を登る。草付きで悪い足場。支点をとって荷揚げして登ると

ジグザグの滝の5分の4くらいのところまでた。ここが今日のハイライト。滝の流れの下を潜って、ぬめった滝の右側を登る。

私はカップのフードをかぶり忘れてびしょびしょになってしまった。

体温が下がらないように、呼吸を意識的に深めながらもくもくとまだまだある滝を登っていく。

いくつも滝を越えても、なかなか布引きの滝は姿を見せてくれなかった。

全国、そして世界の谷を歩いているNさんもこの谷の深さは格別だという。

そろそろ野営スポットを探さなければいけない時間になってしまい、ザックを置いて周辺を探索し始めたところで、ついに布引きの滝は姿を見せてくれた。

落差60筋。滝の下部には虹ができています。ほぼ谷間に垂直に落ちていて広がらない滝なのでとても清楚な印象がする。滝の左下にあるこんもりとした草原はまだ日が射している。

この丘を私たちは「ハイジの草原」と名付けた。私は陽が残るここでぬれた体を乾かした。Nさんは荷物を置いて今日の野営スポットを探し、明日のルートも検索している。結局適当な平がないので、流れの脇の一角の斜面を借りて休むことになった。たき火をして、濡れた体を温める。一息ついてから今日の夕食作り。今宵はNさんの中央アルプスのお土産のギョウジャニンニクをキュウリと塩昆布のお漬け物に。新玉ねぎとギョウジャニンニクのポトフ、鶏のささみはイブキジャコウソウと合わせてスパイシーに仕立てた。

そして、小河内沢の支流の黒の田沢の水で育てた自家製米。

ビールと日本酒で「布引きの滝」に乾杯。お楽しみは欠かせない。